



露地ショウガ通信

回覧

高南農業改良普及所 R7年4月作成

5月号 ショウガの出芽と1次茎の保護について

こんにちは、高南農業改良普及所です。ショウガの収量、品質アップに向け、この時期に注意すべき栽培管理についてお知らせします。

1. ショウガの出芽と不織布除去のタイミング

ショウガの出芽は積算地温約600℃ではじまり、約1000℃で生えそろいます。例えば、平均地温21.8℃の場合おおよそ29日目から出芽を開始して、46日目に生えそろいます。

パオパオ等の不織布は、出芽2～3日前を目安に除去しましょう。遅れると、出芽した芽を傷つけたり、十分順化していない芽を高温で傷める可能性があります。

(参考) 植え付けからの地温・気温と出芽 (2008年四万十町若井川)

月日	経過 日数	地温		気温		備考	月日	経過 日数	地温		気温		備考
		日平均	積算	日平均	積算				日平均	積算	日平均	積算	
4/21	0	21.1		15.5		植え付け	5/16	25	23.0	527.7	16.3	391.8	
4/22	1	18.9	18.9	15.1	15.1		5/17	26	23.8	551.5	17.2	409.0	
4/23	2	19.8	38.7	15.6	30.7		5/18	27	24.2	575.7	18.1	427.1	
4/24	3	20.5	59.2	15.5	46.2		5/19	28	22.4	598.2	18.0	445.1	
4/25	4	19.4	78.6	11.1	57.3		5/20	29	22.1	620.3	17.7	462.8	出芽始
4/26	5	19.4	97.9	12.8	70.1		5/21	30	23.1	643.4	16.4	479.2	
4/27	6	19.9	117.8	14.7	84.8		5/22	31	24.0	667.4	18.2	497.4	
4/28	7	20.1	137.9	13.6	98.4		5/23	32	24.1	691.6	18.4	515.8	
4/29	8	21.4	159.2	15.9	114.3		5/24	33	22.9	714.5	18.8	534.6	
4/30	9	23.4	182.6	17.0	131.3		5/25	34	24.1	738.6	22.7	557.3	
5/1	10	21.0	203.6	15.3	146.6		5/26	35	26.1	764.7	22.4	579.7	
5/2	11	19.8	223.4	16.8	163.4		5/27	36	26.6	791.3	20.2	599.9	不織布除去
5/3	12	22.6	245.9	19.6	183.0		5/28	37	24.8	816.1	18.7	618.6	
5/4	13	24.0	269.9	18.7	201.7		5/29	38	21.6	837.7	21.5	640.1	
5/5	14	22.4	292.3	17.6	219.3		5/30	39	21.5	859.2	18.6	658.7	平均出芽日
5/6	15	22.0	314.3	15.2	234.5		5/31	40	20.9	880.1	18.5	677.2	
5/7	16	23.0	337.3	17.0	251.5		6/1	41	21.8	902.0	18.9	696.1	
5/8	17	23.5	360.8	18.1	269.6		6/2	42	20.3	922.3	16.9	713.0	
5/9	18	22.5	383.3	17.4	287.0		6/3	43	19.2	941.4	17.6	730.6	
5/10	19	20.0	403.3	13.2	300.2		6/4	44	20.0	961.4	17.9	748.5	
5/11	20	19.9	423.2	14.7	314.9		6/5	45	20.6	982.0	20.4	768.9	
5/12	21	20.9	444.1	15.7	330.6		6/6	46	21.6	1003.6	19.8	788.7	出芽率100%
5/13	22	19.5	463.6	15.5	346.1		最高		26.6	-	22.7	-	
5/14	23	20.0	483.6	14.5	360.6		最低		18.9	-	11.1	-	
5/15	24	21.1	504.7	14.9	375.5		平均		21.8	-	17.1	-	

注1) 地温測定：うね中央15cm深 気温：窪川アメダスによる
2) 不織布被覆は定植直後 出芽始めは推定日

※「露地ショウガの安定生産栽培指針」より抜粋

裏へ→

2. 1次茎の保護

1次茎はショウガの生育にとって重要です。不織布を除去した後は、速やかにカブラヤガ等のネキリムシ類による食害を避けるために防除を行いましょ。また、アワノメイガ、イネヨトウ等のメイガ類は茎に食入し1次茎に大きなダメージを与えます。メイガ類の防除も行いましょ。

一特に注意すべき病害虫一

※「こうち農業ネット」より抜粋

① カブラヤガ

定植後まもない野菜類の株元をかじり、切り倒すネキリムシの代表種。ショウガの場合は、萌芽初期に茎の地際を食害される。特に、1次茎が食害を受けると、収量に大きく影響する。

若齢幼虫は地際の茎葉に寄生し、中齢幼虫期以降は日中は土中に潜み、夜間に地際部を食害するようになる。成長した幼虫は1匹ずつ散らばって分布しており、1匹の幼虫が次々と加害するので、棲息密度がそれほど高くなくても被害は大きい。

<対策>

- ・被害株元の土中に加害幼虫が潜んでいるので、そこを掘り起こして幼虫を捕殺する。
- ・畦をできるだけ高畦にして移動を防ぐ。
- ・定植前の土壌消毒も有効。



② イネヨトウ

ふ化後、茎内へ侵入し内部を食い荒らし、心枯れを起こす。被害はアワノメイガに酷似しているが、心枯れ茎内の食害痕はアワノメイガより荒々しい。また、幼虫の体色は淡紅色で、体長は26~31mmとアワノメイガよりもやや大きく、区別は付きやすい。

被害の多い時期は、5月下旬~6月上旬と9月下旬~10月である。5月下旬~6月上旬の発生は地域差や年次間差がみられるが、萌芽後間もない茎が食害されるため、発生量の割には被害が大きい。

<対策>

- ・ほ場内の枯死茎は、早めに除去し処分する。
- ・とうもろこしほ場に隣接した場所での栽培は避ける。

